

## 練馬区小中一貫教育資料作成委員会（第12回）「心の教育の推進」部会 要点録

開催日時	平成22年6月7日(月) 午後4時00分～午後6時29分	
会場	練馬区役所本庁舎12階 教育委員会室	
出席者	委員	生越詔二、石原正義、福田純子、久能正吾、濱元雅俊、相田真人、小林昭文、鈴木芽吹（敬称略）
	その他	教育出版
	事務局	小坂橋悦子 指導主事

### 1 はじめに

#### 部長

今回は指導プラン例をいろいろお持ちいただいたということで、その検討に入るかと思う。心の教育ということで、難しいところはあるが、皆さんの知恵を拝借してやっていきたい。

#### 事務局

まず、資料が本日の次第、要点録。欠席の山崎先生の指導プラン例で、規範意識（案）。あと、担当の先生方のプランを考えてまとめたもの。

要点録は訂正や削除があれば今週中に事務局の小坂橋までご連絡いただきたい。

本日の協議の内容、前回、宿題でそれぞれの先生方にお願ひし、案ができてきた。この中から、どこにどう重きを置いていくかといったところに入っていく。できれば今日は、最終的にはどこの指導案を作成するのか、分担は誰にどうお願ひをするのかまでいけたら。また、次回以降の予定を決定していきたい。

まず初めにそれぞれのプランを考えてきてくださった先生方から、こういう考え方、こういう案を考えてきたとご説明いただきたい。前回、これは必ず必要ではないかと二重丸を付けたところもあるので、そこを含めながら、どこを指導案として作成していくのかといったところに実際入っていければと思う。

### 2 協議

#### 委員

すでに昨年の段階で決まっているものについて、学年ごとに育てたい子供像、そこまでは変わっていない。想定できる主な学習活動のところ、**「人の心と身体を傷つけてはならないこと」**、自分が指導するならこれはやはり1本通したいと思い、1年生から9年生まですべて入れてある。そのほかは各学年の特徴的な学習かと思うものを入れた。中学の部分については大まかな想像でしか書いていないので、教えていただきたい。

道徳については、動植物の愛護や生命尊重といった徳目が中心になるだろうということで、1年生から9年生まで通した。

総合的な学習の時間に各学校の特色が出ると思うが、これは主に本校と桜中学校のやっているものを入れてみた。

家庭との連携では、道徳授業地区公開講座に参加していただくとか、人権教育講演会にお越

しいただくとか、地域の方を招くこともできると思うし、セーフティ教室で自分の身を守ることを子供たちに教えると同時に、地域の方々とも連携してやっていけたらいい。

#### 委員

黒いところが決まっているところで、それに合わせて作った。想定される主な学習活動のところには、行事等を入れた。この前の話で出た二重丸や一重丸のところを意識して、波線を引いてあるのがその個所。4年生でクラス替えをするからここで学級開き、出会いの素晴らしさを教えなければいけない、また3年生辺りでクラスが変わる前に新しい環境への準備が必要だと考えた。

7年生の臨海学校で、大遠泳で一人では泳ぎきれないところを、大人数だから泳ぎきれるところを体験をする。思いやりの気持ちとか連帯して泳ぎきれるところを体験できる。教科で言うと保健体育だが、臨海学校自体は特別活動。クラスも中心になって、いろいろなスローガンを作って臨海学校を成功させればいい。

職場体験は本校では7年、8年、1年、2年でやるが、最終的には1年に移っていくと思うので、両方書いた。地域で守られている、地域があって社会が支えあって成り立っているということで、職場体験も思いやりの気持ちに関係があると思った。

練馬区ではいじめ防止キャンペーンをやっている、本校では生徒会の本部役員の主催でいろいろやっているのだから、それを入れることもできる。家族に思われ、地域で思われ、そしてお互いに思い合うことでいじめが防止されるだろうということ。これもいい活動になるのではないかな。波線は二重丸、一重丸のところまで考えてきたところ。

#### 委員

社会連帯に関しては、最初の三つ目のところまでは、前回提案させてもらったもの。文字のポイントの大きいところが今回入れた文言。想定できる学習活動、その他の道徳、教科等に関しては、前回、自尊感情の時に使ったものをベースにしてある。これはこれから十分検討しなくてはならない。最後の、発達段階を基にということところは、前回、学年が進むに連れて丸の数がかなり増えたが、社会連帯の場合は、今までの五つのすべてが関連してきている。

同じように規範意識は1と2。1のほうに重きを置いて社会連帯と連携させてはどうか。特に4年生のところでは、2分の1成人式に関して、生命尊重や自尊とつなげて連帯を持っていったらいい。5年に関しては生命尊重がだぶっているが、前回話があった理科で生命に関する学習を重点化してやるときに、連帯とつなげてやること。もう一度ここでⅡ期の確認の意味で、規範意識について押さえる意味で5年のところに入れた。

付ければ全部付けられるが、特に8年のところで規範意識と思いに関するものを連帯に関係づけるとしたら、最後の9年のところでは、小中連携した教育を受けた、またはそこで学んだ自分に対する自信、誇り、命を大切にしていこうといった思いを基にして、社会連帯意識とつなげてやっていくのがいい。考え方によっては9年間をまとめた意味での規範意識も持たなければいけないし、一人ひとりを大事に思う思いやりも持たなければいけないし、このⅢ期の9年目は全部丸が必要だが、五つの項目ごとに考え合わせたものを総合して、皆さんで共通理解してやっていくほうがいいと思った。

#### 委員

具体的に自尊感情で使える資料はどういうものか探した。これは「特別支援教育コーディネーターのための対人関係ゲームマニュアル」という本。本来は例えば ADHD、いろいろな子用のスキルアップのための本だが、使えるかと思い、具体的なものを挙げてみた。この本の使い方を1枚目に書いて、その後は実際に SCの方がやって効果のある、やりやすいゲーム形式のものを紹介している。後ろは、プログラムにするときにどういう思惑でプログラミングしていったらいいのかを抜粋した。

自尊感情で、いちばん初めに自己肯定感を作っていくためにはどうしたらいいのか。私は中1を見ていても、遊び足りないと感じている。遊びを通してぶつかったり、そのあとうまく修復していったりということがない。特に1、2年生は、総合的な学習でスキルアップの視点からたくさんいろいろな遊び、ゲームを取り入れた活動をやればよい。

#### 事務局

ここから具体的にどこをどう重点、ポイントとして資料作りに向けていくか。

#### 委員

中学校の教員の立場から言うと、小学校から中学に入って来たときに、一番気になるのは規範意識。それと思いやりの心。それぞれの小学校、中学校の教員で、小中連携していないとするといちばん気になるころ、1年のときにどの先生も優先してやっているものがあつたら、教えていただきたい。そうするとどこにポイントをおくと実践的かが見えるのではないか。

#### 委員

小林先生のところは、規範意識が足りないからやっといこうといった共通理解が学校としてあるのか。

#### 委員

はい。まずは規律とか、集団行動をきちんとやるというので、運動会に向けて1年生は学年集会で整列からやらせる。そこから始まって、朝礼で全校でやる。最終的には、生徒が練習計画まで立てて、実行委員が全部動かして運動会をやっているので、規範意識、集団行動のスキルアップはこの時期の課題。

もう少し踏み込んで言うと、「生活指導のしおり」を作っている。「危機管理マニュアル」もあるが、問題行動が起きたときの対応策なども共通認識を作るために作っている。4月の当初に読み合わせをする。やはりマニュアルとか、同じ意識を持つことはとても大事。

#### 委員

自分が行事や何か授業を作るとき、規範意識を付けようと思って行事をやるかどうかは非常に重要なこと。そういうふうに思って行事を立てていけるような教師の集団であってほしい。

#### 事務局

今、規範意識の特に気になっているところで、中学校の先生のお話があつた。小学校の先生

方はいかがか。例えば規範意識を身に付けさせるために意識して指導していることがあるか。

**委員**

下石小は「下石小の決まり」という冊子を作っていて、その中に学校の決まりや行事の予定、学校のことや時程表、地区班のことが載っている。それが全児童に配られて、4月の最初に児童がクラスで読み合わせをしている。各教室に廊下の歩き方の決まり「はさみ」を教室に貼っている。「走らない、騒がない、右側を歩く」。今年は全教員で4月から教室掲示をして取り組ませている。

**委員**

中学校で規範意識を言う理由は、年々小学校から上がってくるお子さんのスキルが下がってきて、昔はやれたことができなくなりつつある。だから4月に、チャイム着席キャンペーンを2週間徹底的にやっている。そこがいちばん重要なので、小中一貫でなければ、中学校としてはやはり規範意識から入っていくと思う。小学校としては、第Ⅰ期の辺りで何が中心で取り組まれているのか。第Ⅱ期で上級生になると、どの辺をいちばん課題だと思われているのかを教えてほしい。

**委員**

うちに入る小学校は、非常に躰が行き届いている。それが中学校に行くとだんだん、崩れてできなくなってしまったという反省はある。いいところは残していきながらも自由に動けるような発想豊かな子供にもしたいと、毎年反省している。

**委員**

相田先生のところは、中学校に入ってきたら、やはり規範意識から入るか。

**委員**

ええ。小学校と中学校では規範意識で教員が目を向けている場所が違うような気がする。

**委員**

あと、中2はなかなか難しい時期なので、うまく人間関係を作っていくという意味では、思いやりの心やそのベースになる自尊感情が重要だろう。実際に取り組ませていることは2年生、3年生辺りで、地域に出て職場訪問や職場体験とか。

**委員**

うちは4月の早い段階で、生活の決まりというガイダンスをやる。試験の決まりとか。

**委員**

新入生は「新入生のしおり」みたいな冊子を作って、その中に決まりごとを入れ込んだものを毎年少しずつ変えながら使う。それを使って、特定の学年が特定の考え方で動かないようにする。どの学年も学校として足並みが揃ってというほうが優先する。そういう方向性でいろいろ

るな約束事を作っている。

#### 委員

筆箱ひとつ取っても、あっちのクラスは大丈夫、こっちはだめということがあってはいけない。ただ、高学年になったら許されるという意識が子供たちにある。毎年、学年の最初に持ち物とかこういう決まりがあるというのは、入れておかないといけない。もし入れるとしたらⅠ期、Ⅱ期、Ⅲ期のいちばん最初の部分に、規範意識として区切りになるところで入れておくのも必要かと思う。

#### 委員

規範意識というといろいろあって、いちばん大切なものは何かと考えていた。命を大切にするとか、授業規律とかいろいろなものがある。1年で守るべき規範意識、中3で守るべき規範意識は違うような気がしてきた。そうすると、学年によって違うというのもありか。年を追っていくと変わっていく気もするが、どうか。

#### 委員

今ちょうどうちの学校でもめている。家庭の考えで、小1の段階から髪の毛が茶色い子がいる。中学ではとんでもない。一貫校とか、一貫教育をするのであれば1本に通さないと。小学校1年生でも余計な物は持ってきてはいけないとなるのか。

#### 委員

基本的には1年生は入学のしおりに、筆箱の中身、2Bの鉛筆3本と赤鉛筆1本と白い消しゴム1個という指定をする。それはそういうものだと理由も有無もない。だいたい私が今まで行った小学校はそう。基本的には6年間いくのだが、高学年になると「なんで」という気持ち芽生えてくる。つまり小さいうちのほうが外からの規範が大きくて、上に行くほど自分で判断できる部分が増えていくのが、私は正常な発達だと思う。

今度は旭町小のきまりは1から4までを基本として、5から7の自分で判断できる、そのわけを考えられる部分までに対応できるだけの規範があればいい。8年生と9年生は人に迷惑をかけず、授業中いたずらをせずみたいな。

#### 委員

実はそれぞれの小学校、中学校でどの辺が重点なのかを聞いたかった理由はそこ。小学校でどう組んでいるのかがよく分からない。小中一貫だから、連携して次に行こうという判断ができる。小学校から違う集団が集まってくるから規範指導をしなければいけない。積み重ねていけば、今中学校でやっていることはやらなくてもいいかもしれない。中1の7年生になるときに、規範意識をもう一回仕切り直すような形でやらなくても、必要なことだけピンポイントでその期の始まりぐらいにやって、9年間で育てたいモラルみたいなものの筋が通れば、ほかに時間が使えていいのではないか。その分、思いやりの心とか、コミュニケーションスキルを上げていくことに力を注いだほうが子供の生きる力につながる。

#### 委員

どの指導案を作るか、重点はどこかという視点で言うと、1年生に入ったときの学校の決まりの指導と、5年生になったⅡ期の学校の決まりと、8、9年生の学校の決まりという段階が本当は系統的にあるべき。

#### 委員

規範意識についてはそれで十分、うまくいかなければ、子供の育成にあまり成功していないということになる。生命尊重は難しいので、私はイメージが全然ないが、自尊感情などはどうか。3、4年生ぐらいで自己肯定感が低下していく。何か必要なのか。前回、生命尊重か自尊感情で、4年生で2分の1成人式をやるということで、自信を持つ、認められるという部分が大きいので、自己肯定感か。あと、自尊感情の7学年の接続のところで、何かプログラムが必要なのではないか。また、4年で2分の1成人式をやって、9年生の卒業期に自分の進路を表明できるような子供に育てていきたいということなので、自信を持ってそれを表現できるという強さ。と考えると、やはり卒業期にプログラムがあったほうがいい。

#### 事務局

1年生のうちに安心感、居場所があることが大事。どうしても自尊感情が下がり気味になってしまう中学年、3年生辺りで何か一つ入れておく必要があるのではないかと、前回確認をした。そして2分の1成人式で、10歳で区切りを付けて、ちょうど第Ⅰ期の終わりで第Ⅱ期に入ることもあるので、そこで自信を付けさせよう。そして接続を考えると7学年のところで指導が必要であり、最後卒業期、自分の進路も含めて自信を持って前向きに進んで行かれるようにということだった。その五つのポイントで、特に2分の1成人式は特に大事だと確認させていただいた。今の流れでよければその辺りで自尊感情を重点的に指導していくことになる。

#### アドバイザー

複数の小学校から中学校に集まってきて、改めて新たな集団としての基礎、規律みたいなものをつくっていかざるを得ない、ということは練馬区だけでなく、いろいろなところも同じ。一貫校、あるいは連携を考えると、小は中の、中は小の先生方がお互いにどうなるのかというのが見えない。この表は、それはお互いが見える。そのところは強調しておきたい、まず前提として我々が共通認識する必要がある。

昨年1年間もこの項目について目標概念を設定した。具体的には6歳から15歳までの成長を考えたときに、こういうものがある。現在は小、中に分かれているけれども、小学校から見れば一貫校になった場合には先々どうなるのか。中学校の先生から見れば、どういう指導が積み重なってこうなっているのか。まずこれが見えること。

そして、これを作ったことでほぼ、中身でどれを取り上げるかの話。今の規範意識なり自尊感情の問題も、これが突破口。どこを重点にしていくか分からない難しさもある。先の議論の方向として、ここにマトリックスを作ってもらった中で、絶対量のこと勘案しながら、全体像で示す。具体的なプラン。考え方として大事なものは、9カ年にわたる流れが分かること。そして具体的にいくつかを取り上げた。非常に単純化して考えると、そうした論理の中で進めるとぶれないですむと思った。

もう一つだけ、規範意識について教育論で発達とか教育ということで考えると、一般に右肩上がりを我々は考える。人間性という意味で言うと、我々が期待するように、計画するようにはなかなか伸びて定着していかない。そのことは十分認識してやらなくてはいけない。だから先生の強い意志が要求される。どんなに例外的なことがあってもこの先生は曲げない。これはさっき言った小中の、基本的に何を大事にするかが見えることなのだと思う。

さらに、これを整理していく作業と、先ほどの議論の続き。どこどこを取り上げるか、どういう考え方で取り上げるかをもう少し詰めて、あとは分担に行ったらどうか。

#### 部長

例えば規範意識のところは1年、5年、8年ということ。例えば標準服を5年生から着させるといふ話がある。そういうところを含めたらやはり1年、5年、8年でいいのか。

#### 事務局

前回は実は規範意識、生命尊重、自尊感情はけっこう意見が出て盛り上がったが、思いやりと社会連帯については話し合いが十分でなかった。もう一度確認の意味で見ていただいて、ある程度絞り込みをしたい。

#### アドバイザー

先ほど非常に納得したのは、体験のことを盛んにおっしゃっていた。20歳、21歳の介護体験をしてくる学生の報告を聞いていると、まさに体験が心を育てるというのがよく分かる。

体験をどこかで強調したもの、思いやりだ。Theory of Mind。相手の気持ちを理解できる、相手の感情を推察することができる、こういう能力だと思う。体験は売りにしてもいい。先ほどの体験のところは、ぜひ形にしてほしいと思う。中学生に1週間の職場体験。

神戸が最初にやってニュースになったのを見たときに、中学生があれほどものを感じることに変化したり、実感させられたというのは、すごく鮮明だった。つまり人と触れ合う。大人というのは大変な負荷を背負いながら生きているということを実感する。商店に行った子供の話がいちばんおもしろかった。気分がいやでもお客さんに頭を下げなくてはいけない。これはすごく人の心を感じる、実感として迫る。職場体験、先生のお話にもあったのでどこかに生かしたい。特に、Ⅱ期からⅢ期にかけての辺りか。職場体験などというのは、思いやりだけではなく、実感できるたいへんいい機会だ。

#### 事務局

職場体験は、東京都教育委員会においては中2・5日間を基本ラインとしている。しかし本区では、引受先等の問題もあって、3日ぐらいが多い。2日から3日。

#### 委員

実は去年ぐらいから本当に引き受け手がない。

今月やるが、本当に10回かけて全部断られている。厳しくてもどこかではやはり単元としては組む。

**委員**

だとしたらやはり中2で。それを思いやりでいくのか自尊感情でいくのか。

**アドバイザー**

両方取り上げてもいいのではないかな。

**委員**

前回、思いやりの心で、1、2年生に丸が付いている。これのどちらかでやりたいなど。

3年生で社会科の副読本、要するに中学校で言うと「私たちの練馬」、あの副読本を3年生で使うという話がこの間出た。

**委員**

2年生は、1年生を連れて校内探検をまずやる。校外学習みたいな形で幼稚園に行ったり、出張所に行ったり、お店屋さんに行ったりするのをこの間やっていた。

**事務局**

それはまち探検とかまち博士になろうとか、その類。生活科、2年生でやる。

**委員**

保護者ボランティアを募って。生活科の単元。

**委員**

うちは、中学校見学は3年生。

**事務局**

お店に限らず、児童館に伺ったりなどもある。

**委員**

地域安全マップづくりはうちは3年生。

**委員**

うちは安全マップは4年。

**委員**

実際にやっている取り組みは、地域との関連でやるのなら地域連帯でその体験を取り込めるといいのか。地域連帯の自覚だが、うちの総合のテーマは、中1は地域を知る、中2は地域を体験する、3年は地域で貢献する。連帯というと非常に重いし、さらに自覚が付く。Ⅰ期は知るでいい。Ⅱ期については体験する。Ⅲ期は貢献するという方向性で社会連帯がある程度くれる。それと思いやりの心で、体験をどう組むのかでいろいろリンクすることがあると思う。私は思いやりの心で7年生でやらせたいのは、実はあまり体験ではない。思春期の入り口で不



登校が多くなる時期だから、7年生はここでしっかり他者理解とか、支え合う心を育てるといったプログラムを押さえておきたい。

生越先生の話もすごく大事だし、練馬区も小中のいちばん初めのプロットプランでも体験を重視するとはっきり書いているから、それはとてもいいことだと思う。思いやりとしては7年生辺りで他者理解、コミュニケーションスキルみたいなことをきっちりやっておかないと、思春期でいろいろなことを考えて、今までの言い方だと傷付く子とか必ずいる。ここはそういうところはちゃんと押さえたものをやりたい。あとは、体験を取り入れたものとかゲーム的なもので、自尊感情とリンクして思いやりの心を育てるのでいいのではないかな。

一つの項目にあまりたくさん指導例がなく、ある程度ばらついたほうが使える形になる。その辺でうまく振り分けしていくと、自尊感情も伸ばせるし、思いやりの心も伸ばせる。要するに自己肯定感も大事だけれども他者理解もというゲームはたくさんある。第Ⅰ期はそういったゲーム的なものとか人間関係を育てるみたいなプログラムが入って、思いやりとしては第Ⅱ期、他者への心遣いとかコミュニケーションスキルみたいなことは押さえない。7年でも8年でもいいが、いじめ、不登校の問題。これは練馬区の重点施策で、不登校0を目指すという方向が示されているので、何らかのものがあつたほうがいい。

社会連帯は、体験は組みやすい。この間出たのは、3年辺りで社会科の副読本が出てくるので、地域を知るような活動もできるのではないかな。5、6年ではクリーン運動をやっている。進んでいるところでは小中連携で取り組んでいるところがあつて、クリーン運動を5、6年に企画させたり運営させていくことで多年齢の集団をうまく使っていくような活動、それを通して社会連帯もやっていく。地域の活動を体験していく。そこで企画・運営みたいのをやらせておいて、Ⅲ期になったらオリジナルのボランティア活動なり、この学校独自の地域に発信できるような活動をⅢ期の生徒達が企画・運営してやっていく。スキルアップして外に出て行くような活動をさせる、地域に貢献させるような組み方ができないかと思った。

#### 委員

5年か6年が仕切るほうが、やってみるほうがいいかな。

#### 委員

Ⅰ期の子供たちはやはりお兄さん、お姉さんたちと一緒に活動していく中でこういうふうになれたらいいな、この学校で9年間いると、こういうふうには私達を動かしてくれるような力が付くのだなというのを、見せておく、体験させておくのがいい。第Ⅱ期に6年生のステータスが一貫校ではなくなるから、やはり1回は企画・運営していくようなプレ学習みたいなものをやらせてみるのがいいのではないかな。それはもちろん体験といったことも含めて。そしてⅢ期はもっとレベルの高いこと。少しは貢献できるかな。地域の方にもこの学校を支えていただけるような、そういう取り組みまで企画・運営をレベルアップしていけると社会連帯の自覚という意味ではいいのではないかな。

#### 委員

横のバランスを見ると、6年辺りでこれを入れるのがいい。

#### 事務局

6年生が下の子達のこと考え、上のお兄さん、お姉さん達にもお願いをして巻き込んで活動をするような事があってもいいのかもしれない。

まずはⅠ期で3年生での地域を知る活動というところで一つできるのでは。Ⅱ期の6年生、クリーン運動などを自分達で企画して運営していく活動を体験させてはどうか。そしてⅢ期では、自分達の学校がある地域にふさわしいボランティア活動を、自分達が企画をして実際に行うという活動が9年生を中心にできればいいのではないかと、というところで社会連帯の自覚は見えてきたかと思う。

#### アドバイザー

今までの議論の中で、ほぼ共通認識できそうなものはいくつかあるから、それを整理したのを出して、あとは分担を進めない。アウトラインをきちんと決めたら、大事なものを最初に作っていくという方向でどうか。さっきの小林先生の話、大変重要だ。不登校、いじめ云々で思いやりにあまり傾斜しすぎるのもちょっと考えもの。特に不登校の場合は、思いやりに傾斜しすぎると却って難しい。むしろ自尊感情とのからみ、体験を通しての自制心、もうちょっと開いた言い方をすると、この程度のことはがまんできるという積み重ねが少ない。そうしたのも一緒に合わせて作っていかないと、もちろん思いやりは大事なことだが、そっちに傾斜してしまうとちょっときついという気がしている。

#### 委員

私も本当は自尊感情だと思っていて、7年生の接続でいじめとか不登校とかこの辺の人間関係のスキルをアップするようなものがあると思う。

#### アドバイザー

それは売りになりそう。どこに出ているのが必ず問われると思う。中1ギャップについて処方箋を引こうと言っているわけだから。このところについてはここを重点的にやるという特色もありかと今思った。

#### 事務局

自尊感情のところ、7年生に一つ置く。あと、自尊感情のところも、4年生の2分の1成人式はもう皆さんが一致している。そして、先ほどの話では1年生の居場所、安心感も必要だろう、また、3年生における自尊感情が下がる時期についての対応も必要なのではないかとということだった。そして最後、卒業期の9年生でしっかりと自信を持って自分の進路選択をして前に進んでいくといったところで、丸を五つ付けておきたい。

前回、規範意識で、1年生の小1ギャップ、小学校に最初に入学してきたときがいちばん大事なのではないかという話があった。また、5年生辺りで、情報モラルを取り上げていくこと、それから9年生で特に社会の公民の中で規範意識を、学校の中でというよりも社会全体というところを取り上げてはどうかということで、二重丸が付いていた。この辺りも丸を入れたい。

生命尊重は、濱元先生に今回作っていただいた資料の中では、人の心と身体を傷つけてはならないということを特に一貫して指導していきたい、それが大事なのではないか。ほかにも

安全のこと、動物愛護などを取り上げていく必要があるのではないかとの話があった。

**委員**

この間は成長の記録ということも出ていた。

**事務局**

ここでは2年生の生活科で取り上げるということで。

**委員**

この生命尊重で、自分の命を絶つということが、学校でいろいろな取り組みをしても、なかなか止められず、実際に起きる。その問題で、私は中学校や思春期のところしか考えられないのだけれど、自分の命を大切にするというはっきりしたものを打ち出すのであれば、やはり7年生の接続の辺りでこれも含めたものでもいいかと思う。一つのプログラムにはなかなかなりづらいと思うが、重点としてやはり7年生ぐらい、思春期の入り口を中1、7年生と捉えていいのか、それとも小6ぐらいと捉えたほうがいいのか。私ははっきりとは分からないが、その辺でそこを押さえることも生命尊重には大事で、濱元先生の人々の心と身体を傷つけてはならないという中には大事な項目として入ってくると思う。

生越先生、発達段階的には思春期の入り口等々考えると6年がいいのか。7年がいいのか。

**アドバイザー**

これまでの流れから言うと、7年生ぐらいが落ち着きがいい。生命尊重に力を入れるのは当たり前ののだが、一つは思春期の前の辺りがいちばん大事。そこにいくまでは命の大切さに早く気付かせることだと思う。皆に愛されているということが何なのかを実感できないといけない。特に10歳ぐらいまでは命の大切さを理屈で言ってもほとんど実感につながっていかない。

**委員**

私は新生児を中学生、小学生に抱かせて、命と思うかどうか分からないけど、赤ちゃんかわいいなという気持ちを実感させたい。死んではいけないという授業もしたいが、生きているってすごいという気持ちを知らせたい。私は中1が始まると理科の最初のテストに、人は死んでも生き返るかという課題を与えて、それで討論させて授業をやるが難しい。まだ5、6人、生き返るといふ子がいる。生き返ると答えた中にも、輪廻転生というような意味や、一度死んでも愛情があれば生き返るのではないかと考えている子たちがいて、どう論破していくか悩んでいる。

だから命の大切さとは、死への恐怖とかいったものよりも、もっと小さな段階で赤ちゃんのほっぺがかわいいなど、愛おしさといったもので説明、体験させたほうが早いのではないかと。

**委員**

その辺は十分やりたいところ。2年生の生活科で自分が誕生したときのことをやり、小さい子が赤ん坊をかわいいと思うのと、もう少し大きくなって女の子には母性みたいなものが目覚めてくる時期に、うちは中3で保育園と幼稚園の実習をさせている。1日お手伝いに行かせる。

小さい子と触れ合う体験を通して自分の成長を実感したり、社会的に子供たちのために何かやっていたいかなくはないというものを育てたいといった意味で。そこで初めの自分は どういうふうに生まれたのか、自分は大切にされている、私の命はとて皆に大切にされているというのは、2年生のときに作れると素晴らしい。その上にもっと追体験で小学校の5年か6年ぐらいでやってもいいのかもしれない。

自殺行為や自傷行為については、それをポイントにするかどうかはまだ置いておいてもいいかもしれない。これはある程度大きくなっていろいろな悩みができたり、自分が解決できない問題に直面するのでないと基本的には起こってこないであろう。起こる可能性がある年齢に入ったら、何か手を打ったほうがいい気がする。

#### 委員

赤ちゃんと触れ合うことは5年生でできる。胎児の様子は5年生の生命のつながりで扱う。ちょうど妊娠されている先生がいるので、お腹を触ってみようとか、そういうことをこれからやろうかと。命のつながりという知識的な理解もやり、命に実際に触れる経験も5年生ぐらいでできるかと。自尊感情と思いやりの心で横に7年生がつながっている、その辺りを生命尊重まで広げて、これを売りにするというのも考えてもいいのでは。その辺りで自傷、自死、自殺について触れてもいいかと思う。

#### 事務局

今出た話では、命の大切さをある程度、小さな子に触れるなどの体験活動を通して実感をさせることが大事なのではないか。一つは2年生の自分の誕生したときのこと、今までの成長のことについて触れる生活科で。それから5年生の命のつながりも理科で勉強していくので、そこで実感できる学習ができるのではないかということ。あとは自尊感情を少し膨らませつつ、例えば7年生で接続を考える時期といったことを含めると、生命尊重や思いやりの心も視野に入れた中の指導で少し広がりを持たせたらよいのではないか、というような意見が出た。

まだどこも決めていなかったのが思いやりの心。自尊感情を少し広げるといふことになると、7年生でも思いやりの心に少し触れることになると思う。あとは具体的に何期のどの学年でとなるといかがか。

#### 部長

8年生の職場体験でいいのではないか。

#### 事務局

いじめに関することが、この思いやりの心のどこかに入ってくるといいと思っていた。

#### 委員

生越先生の案で7年生を横に広げて、ここで、自分のこととか周りとのスキルというようなくくりになるのか、生命尊重、自尊感情、思いやりの心の三つは何かのプログラムを入れなければいけないのではないか。この時期は一貫してやったとしても、すごく成長して心が動く時期なので、心を育てるためのプログラムは手厚く必要なのではないか。

何か共通したプログラムで思いやりの心も育てたいという触れ方でもいいと思う。思いやりの心にもリンクするその辺に留意して、自尊感情と思いやりでいじめ問題を取り上げるとか。生命尊重と自尊感情をリンクさせて、自傷行為などについての生活指導的な視点からのプログラムがあってもいい。どちらも関わるようなものがここで三つ並ぶが、この中で一つ、二つプログラムが紹介されて、いろいろなものをリンクして狙っているといったものが出せればいい。

そういう意味では、自尊感情と生命尊重の4年生のところ、両方2分の1成人式がからんでもいい。プログラムとしては2分の1成人式なのだが、狙いとしては自己肯定感と、命に感謝するみたいなことであってもいい。ただ思いやりを、I期をどの辺に置くか。やはりそれぞれの期で一つずつぐらいは何らかのものが示されるといい。

私はI期で自尊感情を押さえたいと思っているが、自尊感情と思いやりの心はII期だったらリンクできると思う。I期で初めに周りの子のことを考えられるか。規範意識のルールは押さえなければいけないと思うが、まず自分が楽しむことも大事にしてあげないと。

いろいろなプログラムを見ていると、1年生のときはひたすらじゃんけんしようみたいなゲームがけっこうある。何人とじゃんけんして、何個勝てたか、楽しもうというところから、だんだん勝つことが楽しいのではなくて、一緒にほかの子と何かやるのが楽しいのだという意識を育てていく。そうやって他者理解につなげて、思いやりの心を育てたいという取り組み。ソーシャルスキルにしても、構造的なエンカウンターにしてもけっこうあると思って本を読んだ。自尊感情は数が多くなっているんで、1年は切ってしまう。

#### 委員

旭町小学校では2年生の生活科で昔遊びをしようというのに、おじいちゃん、おばあちゃんを呼んで、すごいなといった体験ができれば思いやりにつながるかと考えた。

#### 委員

学校探検をやるのであれば、1年生への思いやりというところで、1年生を連れて回るとか、そういうところでできなくはない。2年生が1年生に部屋とかそこに勤めている人を紹介する。

#### 委員

低学年の道徳は解説書などを見ると、価値の説明としては身近なお年寄りか若い人に対する思いやり、親切。3、4年生になると友達意識や仲間意識といったところにつながっていくような形が、資料を見ていると多い。

#### アドバイザー

この時期に形として見える思いやりとは、仲良く力を合わせて何かをすること。あるいは何かをしてもらったら感謝をすとか、ありがとうと言うとか、高齢者に対して親切にするとか、こういうことは全部思いやり。相手があって、その関係においてどう自分の心の中を作っていくかということが共通している。思いやりというのは、親切もそうだし、力を合わせることも、自分を大切に、相手も尊重することが前提にあって協力ができるわけだから、形としてはそういう形が出てくればいい。

道徳の授業でもしやるとするならば、何か一つに絞ってやらざるを得ないが、そうでないこ

とを考えるならば、いろいろな形で小学校では思いやりは目に見えるものはたくさんある。

もう少し加えると、小学校の小さいときは気付かせるべきなのだと思う。そのいちばんいい例が、1年生でも小さな花を見ると、性善説で、これはきれいだねと言う。小さな虫を見て誰かがつぶそうとすると、かわいそうだと言う。誰かに教えられたわけではない。そうした本来的に持っているもの、これは思いやりの原点だ。これに気付かせることが教育指導ではたいへん大事。さらに学年が進行するに従って広げ深める。そして大人にだんだん近づく。教育論としては気付き、広げ深めていく。それがイコール、そういう方向性に向かって育てること。

#### 委員

これは教科はあまり偏らないほうがいいのか。だいたい生活や総合になりがち。

#### アドバイザー

道徳の時間の指導も入れておくことは大事。

#### 委員

道徳は今のところそんなに、どこでもできると言えどこでもできるが、入っていない。

#### 事務局

先生方に今日作っていただいた一覧になっているところは全体が見える形、そこからピックアップして、ここだけはしっかりと、というところが今日丸が付いたところ。その丸が付いたところが具体的に見えるようにしたものが、これから作成していただく指導案と資料になってくるかと思う。

今後のことだが、これを具体的に分担して作業に入っていかなければいけない。今単純に丸だけ数えても17個。その中で特に7年生のところの自尊感情、思いやりの心、生命尊重はある程度リンクしながらということもあった。これを具体的な分担として考えていかなければいけない。どういう分担でしていくか。小学校の先生は小学校段階のところを作り、中学校は中学校段階のところを作ることになると、中学校の先生に負担がいてしまうと思ったのだが。

#### 委員

もう1回、17個を確認したい。

#### 事務局

縦でいくと、規範意識が、1年生、5年生、9年生。生命尊重が2年生、5年生。7年生のところは薄い丸ぐらい。ここを入れると17個になる。

#### 委員

もしリンクできるようにであれば横につながるような形で。

#### 事務局

核としては自尊感情で、生命尊重も、思いやりの心にもリンクできるような指導ということ。

自尊感情で付けるようにすると、自尊感情が1年生、3年生、4年生、7年生と9年生。思いやりの心が2年生、8年生。社会連帯の自覚が3年生と6年生と9年生。こうなると15個。

#### アドバイザー

思いやりが二つというのは少ない。

#### 委員

先ほど、講師の先生から介護等の体験に関して云々とあった。うちは4年生に必ず福祉園などへの見学、交流活動を入れている。思いやりが2個ならその前後に入れてはどうか。

#### 委員

新しい教科でどうなるか分からないが、4年生の国語は点字とか出てくる。関連させて、福祉は4年生辺りがいいかもしれない。

#### アドバイザー

施設見学とかそういうのは小学校でもやるでしょう。今後ますます必要だと言われているから、思いやりの中にそれを入れてもいいのでは。

#### 事務局

思いやりの4年生に一つ入れて、16の丸になった。あとは分担だが、横につながる7年生のところは、小林先生の考えがうまく表現されるのかと思った。

#### アドバイザー

この整理を二人の先生に見ていただくといいのではないかと。見ていただいて、レベルを揃えたらどうか。今の議論を踏まえてやっていただくと同時進行でできる。ここまではきちっと整理されているから、粗々でいい。道徳の時間の指導が少ないのであれば、膨らますことも。それは最後の調整になる。ここの議論の目的というのは、こうした側面から心を育てたいと言っている。道徳が入っていないと、この心の部会を設けたところがちょっと問われかねないので、入れておく必要がある。すべての教育活動を通して心を育てているのだけれども、その要としての道徳という意味で0ということはありません。

(資料配布)

#### 委員

校長先生方にそれをお願いできるならば、7人いるので、3個ないしは2個。

#### 事務局

この表は今日のものとは違うので、確認で、この五つの表を校長先生方に整理をお願いしてよいか。

#### アドバイザー

新しく作るのではなくて、整理するという意味で。同じレベルで揃えていかないと整合性が

取れない形になっている。具体的に言うと、それぞれの重点に挙げたところの、私はこう考えるというところのレベルが必ずしも同じになっていない。その辺りを揃えておくといいのではないか。いちばんそれが要求されるのは、この辺りだと思う。道徳とか各教科とか総合とか、どういうレベルのものを取り上げてここに並べていったらいいかを、出たものを見て、このレベルに揃えればいいのかということを出していただければ。

**委員**

枠の方向性という意味でいいか。

**事務局**

割り当てが決まったので、確認したい。

規範意識の1年、山崎先生。5年が濱元先生。9年が小林先生。生命尊重の2年、鈴木先生。5年、濱元先生。自尊感情の1年、鈴木先生。3年、山崎先生、4年、濱元先生、7年が小林先生、9年が相田先生。思いやりの心の2年が山崎先生、4年、久能副校長先生、8年が相田先生。社会連帯の自覚の3年、久能副校長先生、6年が鈴木先生、9年が佐野副校長先生。

**部長**

この中で、はっきりしていて道徳でやる場所はあるか。

**委員**

自尊の9。

**事務局**

1年と3年も。

**委員**

自尊の7年で、中学校ではいじめ撲滅キャンペーンのデータを教えていただいてそれとリンクする、相田先生の学校が道徳でも活動しているということ。

**委員**

私だったらそれを道徳で作れるけれども、これをやっているのは生徒会。

**部長**

そうすると、自尊感情の9年と7年。あとは自尊感情の1年もそうなのか。ここで道徳の授業がある程度この中に入っていないと、という意味で聞いた。

**委員**

規範意識の5年、副読本で携帯電話のことなども入ってきているので、例えば情報モラル講習会で1時間、道徳の副読本を使って1時間というような形で作れる。



**委員**

作る教材についてちょっと確認したい。1コマだけの授業ではなくて、ある程度こういう取り組みが積み重ねられるといったものがあるって、そのうちのこの時間だとこんなものが提示できるみたいな、プログラムでいいのかな。

**事務局**

それで構わない。濱元先生のように情報モラルとして5年生はやるので、それが1コマあって、それを補完する道徳の時間という形のほうが、子供たちに定着ということがいいと思う。

**委員**

思いやりの4年、社会連帯の3年、道徳で関連付けられるかどうかやってみる。

**アドバイザー**

道徳の時間1時間ですべてをクリアしようということではなくて、こういう流れの中で位置づけてこれということだと非常に実際的なのではないかな。

**委員**

道徳で展開する人と学級活動だとか生活科で考える人がいると思うが、例えば生活科でやってもそれは道徳でこういうふうにとできると、一言入っているといいと思う。

**委員**

道徳とこの授業との関わりを必ずどの指導案にも入れると心の分科会らしいかもしれない。

**委員**

新しい指導要領でも教科とか道徳的な項目を入れて道徳教育をすとうたっているんで、それが生活でも総合でもその視点をうまく入れられればいいのではないかな。

**事務局**

道徳を主にしない取り組みとしても、道徳に関連する視点を必ず入れるということで確認しておきたい。

今日は分担まで決まった。次回の日程は、8月2日、2時から4時。その1週間前の7月26日までに作成された資料を事務局にお送りいただき、事務局がコピーしてそれぞれの先生方のお手元に届くように配布をすることにしたいと思う。